オリオン座

だれもが知っている冬の星座、オリオン座は一等星がニ個、二等星が五個もある見事な星座です。
紀元前1400年ごろには既に知られており、古代エジプトでは死者の神オシリスの姿だと言われていました。
ギリシャ神話ではオリオンは海の神ポセイドンの血を引いているため海の上を自由に歩くことができ、何よりも狩人の名人として知られていました。
ある時、キオスの王のところに滞在していましたがこの時王が気に入っていたメローペという女性に恋をします。
良い気がしない王はある日オリオンを酒に酔わせ眠っているところを部下に襲わせました。そのためオリオンは盲目になってしまいます。
深く悲しんだオリオンは大神ゼウスに視力の回復を祈り、ゼウスの哀れみによりオリオンは視力を取り戻します。

ある日、月の女神アルテミスはオリオンに恋をします。
兄であるアポロンはそれが気に入らなく、日の光を当て輝かせたオリオンを鹿だと言いアルテミスに弓を射らせました。
しかし川岸を見たアルテミスの目には胸を打ち抜かれたオリオンの姿が映ります。
悲しみに暮れたアルテミスは「せめてオリオンは立派な姿で空の中に入れてほしいと」ゼウスに願い、こうしてオリオンは星座となって輝きます。

他にも様々な伝説が残っていますが、夜ふと見上げた空一つ一つの星に物語があると考えてみるととても興味深いのかもしれません。

朝日を求める盲目のオリオン